



月刊ジオパーク令和6年1月号

喜界島ジオパーク認定推進員 土屋純子

公民館講座「ジオを知る体験教室」

第4回 喜界島の恵み 喜界島のゴマと野菜

9月30日に中央公民館で行われた、公民館講座「喜界島のジオを知る体験教室」では、喜界町役場農業振興課の榮 岳海主事を講師にお迎えし、特に喜界島のゴマに焦点を当て、喜界島の農業について情熱的に語っていただきました。

日本のゴマの自給率は、わずか0.1%に過ぎず、うち65%が喜界島で生産されています。喜界島は、隆起サンゴ礁段丘の島で、その土壌は主に隆起サンゴ礁の石灰岩が風化してアルカリ土壌となっています。この喜界島特有の土壌条件が、ゴマの生育に最適な環境であり、日本一のゴマ生産量を可能としています。

現在、喜界島ではサトウキビの収穫と植付けの合間を有効利用し、サトウキビとゴマの輪作に取り組む生産者が増加しています。サトウキビとゴマを周期的に栽培することで、地力の維持と病虫害の防止につながり、農作物の安定多収生産による持続可能な畑づくりを実現しています。

榮主事は、将来的な目標として、喜界島産のゴマのブランドを確立させ、その保護

と強化を図るとともに、品質の維持と地域の特産品としての価値向上や地元農家の収益力強化を目指したいと抱負を述べ、座学を終えました。

第5回 喜界島産ゴマの収穫体験

翌日は、志戸桶南部集落区長の向井康治さんの畑で、ゴマ刈りを体験させていただきました。ゴマを刈り取ると、その茎や葉からも豊かなゴマの香りが漂っていました。刈り取ったゴマは葉を取り除き、ひとつに束ねた後、数日間天日干しをして追熟させるのですが、この日は向井さんが事前にゴマを収穫し、じっくりと乾燥させたゴマの束を叩いて、ゴマの実を取り出す脱穀作業をさせていただきました。取り出したゴマの実は、唐箕^{とうみ}という選別機を使って、細かなゴミや不要な部分を取り除く選別作業を行った後、さらに微細な異物を取り除く仕上げの選別作業を経て、清潔で良質なゴマとなります。

収穫体験終了後、お土産にいただいたゴマを、向井さんに教わったとおりゴミを丁寧に取り除き、きれいに洗ってからフライパンで炒っておいしくいただきました。今回の収穫体験を通して喜界島の隆起サンゴ礁がもたらしたアルカリ土壌の恩恵、自然

の恵みをじっくりと味わう大切さを学ぶことができました。



防災訓練で

ジオパーク講話をしました！

11月3日、浦原の農村公園で先山集落・浦原集落を対象とした防災訓練が行われました。今回の防災訓練では、地震を想定し、集落から避難場所までの移動や消防署の消火訓練などが行われました。喜界町役場総務課が主催のこの防災訓練は、毎年警察署、消防署、自衛隊、気象庁の協力を得て行われており、昨年は早町地区で実施されました。

昨年に引き続き、地域住民の方々が、地球や地域のことを学び、自分が住んでいる土地の地形や地質、気候が原因で起こりうる災害への理解を深めるきっかけづくりとして、今年もジオパーク推進協議会事務局によるジオパークに関連した講話を開催。地形学的な観点から、防災訓練が行われた先山集落と浦原集落の特徴を説明しま

先山・浦原集落は、集落の背後に隆起サンゴ礁段丘の急な崖が迫っています。この急な崖は崩れやすく、大雨や地震といった災害時には注意が必要です。また、段丘の上には主にサンゴで形成された石灰岩が広がっており、その下には「島尻層群」と呼ばれる昔、海底に降り積もった砂と泥の層があることから、これらが大量の水を含むと崩れやすくなるため、特に注意が必要な地質です、と説明をしました。

地域の方からは、『自分が住んでいる土地について考えたことがなかった』『地震が発生した場合には、海だけでなく、背後の崖にも注意する必要があることに気付いた』という声が寄せられました。講話により、住民の方に自分の住んでいる場所を理解してもらうことで、ジオパークの活動が地域の安全意識向上に貢献することもジオパークの活動の役割の一つです。

また、今回の防災訓練では、事務局が会場の農村公園にジオパークのブースを設け、公表したばかりのロゴマークの説明やジオパークに関する情報を提供し、集落の皆さんとの有意義な交流を図ることができました。

